歴史総合-DX

**2003年②（平成15）北朝鮮のミサイル・核開発①（1976〜2003）**

（平成15）北朝鮮の建国の父・金日成（1912～1994，キムイルソン）の息子の金正日（1942～2011、キムジョンイル）が後継者に1974年（昭和49）に内定し、その2年後（1976年）に北朝鮮がエジプトからソ連製の「スカッド」（短距離ミサイル）を購入したのが北朝鮮のミサイル開発の出発点となった。10年後の1984年（昭和59）に国産単距離ミサイル「火星」の開発に成功したといわれ、やがて東西冷戦が終焉、1991年 （平成3）に韓国・北朝鮮の両国が国際連合に同時加盟し、あわせて第1回の国交回復に向けた交渉が始まった。その3か月後の12月には南北首脳会談で将来の統一をめざし、平和共存を確認するとする南北基本合意書に調印した。1992年（平成4）には、北朝鮮が国連原子力機関（IAEA）の核査察協定に調印したが、1993 年（平成5）に「ノドン1号」の日本海沖に向けて発射実験、北朝鮮は核拡散防止条約（NPT）から脱退すると表明したが、その後に米朝高官会議で脱退は思いとどまった。その翌1994年（平成6）の2月～ 6月には、核開発疑惑の北朝鮮が核査察け入れ後に一転して核査察を拒否、それに対して、国際原子力機関（IAEA）が、対北朝鮮の制裁決議を行い、北朝鮮の核査察拒否で核戦争の危機が高まる中、アメリカのカーター元大統領が平壌を訪問、この年（1994年）に死亡する直前の金日成総書記と会談し、核開発の凍結で合意した。金日成の没後の10月には、米朝の関係改善が進み、核を軽水炉に置き換えて米朝正常化に進む「米朝枠組み合意」の文書に調印した（ジュネーブ合意）。翌1995年（平成7） には北朝鮮に軽水炉を提供するKEDO（朝鮮半島エネルギー開発機構）が発足した。1997年（平成9）12月に 米中朝韓の最初の4か国協議が開催されたが、翌年の 1998年（平成10）に北朝鮮が弾道ミサイル「テポドン」を発射し、三陸東方沖の太平洋上に落下、北朝鮮は、人工衛星だと発表した。2000年（平成12）6月には太陽政策を採用する金大中（キムデジュン）大統領が平壌で初となる「南北首脳会談」を開催した。その後には日朝国交正常化交渉も再開、2001年（平成13）から日朝の外交当局が水面下の交渉を始め、その後、翌年（2003）に北朝鮮は核開発に関し、7月末に、ニューヨークで米朝が接触、当事者国に中国・韓国に加え、ロシア・日本も加わった「六か国協議」（六者会合）が始まったが、会合は失敗に終わり、北朝鮮は、10年ぶりとなる2回目の核拡散防止条約（NPT）から脱退することとなった。